

簡易版

あらかわ BCP シート

地震・風水害編

解説書

— 見方・書き方・使い方 —



被害想定



緊急対応



事業継続対策



激甚被害対策
(代替戦略)

令和4年3月



発行：荒川区

企画・監修：東京都立大学 市古研究室

編集：株式会社 石塚計画デザイン事務所

あらかわ BCP シート 地震・風水害編

解説書 — 見方・書き方・使い方 —

目次

1 はじめに

- (1) BCP ってなに? 1
- (2) BCP をつくるメリットは? 1
- (3) なぜ、このシートを作ったの? 1
- (4) こんな皆さんに使って欲しい 1

2 見方・書き方

- (1) シートの構成をご紹介します 2
- (2) 記入の手順をご紹介します 2
- (3) 記入例を活用しよう 3

3 使い方

- (1) 効果的な使い方の一例を紹介します 4
- (2) いろいろな使い方ができます 4

4 お役立ち情報 5

【コラム】作り方 ~どうやって作ったの?~ 6

1 はじめに

(1) BCP ってなに？

BCP (Business Continuity Plan) とは「事業継続計画」のことです。自然災害後の企業の活動再開について見通しを立て、事業（ビジネス）が継続できる対策を事前にまとめた計画のことです。

災害が多発する中、BCP の重要性がさらに高まっていますが、検討すべきことがわかりにくいなども要因となり、全国的に BCP の策定が進んでいる状況とは言えません。

(2) BCP をつくるメリットは？

BCP の策定は、単なる災害時の対策ではありません。災害が起こった後も持続可能な経営が実現できる企業に育てる取り組みであり、BCP の策定によって、第三者から見た企業の価値や評価がさらに高まるという点で、経営戦略上、有効な取り組みと言えます。

また、BCP の策定を通じて、災害時に的確な判断に基づく対応が可能となり、社員にとっては心強いリーダーシップが発揮される環境が整うため、企業と社員の信頼関係が深まるといった効果もあります。

(3) なぜ、このシートを作ったの？

荒川区は、こんな思いで作成しました。

「何から手をつけてよいかわからない BCP。だからこそ、初めの一步として、記入式でわかりやすい「簡易版」BCP シートの作成から始めてもらえれば。」

(4) こんな皆さんに使って欲しい

このシートは、主にこんな皆さんに活用していただくイメージで作成しました。

区内で製造業を営む中小企業の皆さん

- ・ BCP を考えたいが何から手をつけてよいかわからない・・・
- ・ 本格的な BCP を作成する準備の機会にしたい・・・
- ・ 大地震や風水害（台風・大雨等）への対策を充実したい、これから考えたい・・・

2 見方・書き方

(1) シートの構成をご紹介します

このシートは、1～4の4章で構成されています。

(2) 記入の手順をご紹介します

ここでは、モデル手順を紹介します。（一例ですので書きやすい方法でOK!）

手順① 印刷（推奨：A3 両面カラー印刷）して、外三つ折りにする

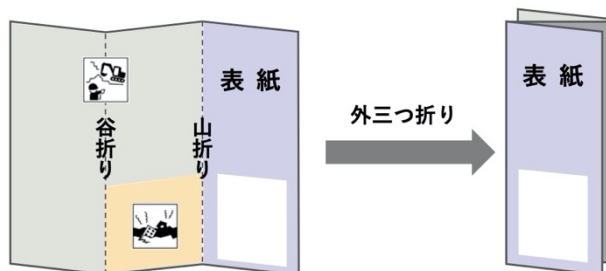
手順① 表紙をめくって3. 被害想定で、自社が受けそうな被害を知る

手順② 4. 災害発生時の対応の緊急対応→事業継続対策→激甚被害対策の順に記入

手順③ 全体を振り返って最後に1. 緊急対応の基本方針、2. 事業継続の基本方針を記入

手順①

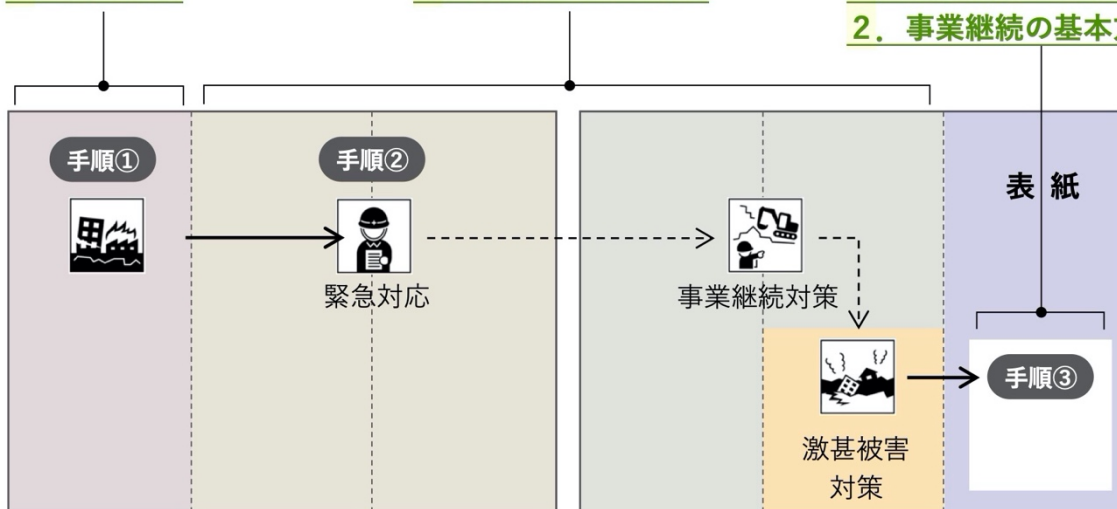
外三つ折りにすると、紙面をめくりながら、手順に沿って書くことができます。また、スペースを取らずコンパクトに作業ができます。



3. 被害想定

4. 災害発生時の対応

1. 緊急対応の基本方針 2. 事業継続の基本方針



(※) 企業の災害対策は発災直後の緊急対応と、その後の企業活動回復に関する事業継続対策の2本立てです。本シートは、BCP策定の第一歩となる事業継続対策だけでなく、安否確認などの緊急対応の検討から始める構成になっていることが特徴です。

(3) 記入例を活用しよう

シートへの記入の際は、必要に応じて「記入例」をご活用ください。

なお、**記入例の内容は例示です。自社のご事情に合わせた内容をお書きください。**

事業継続対策

地震、風水害の後に、自社の建物（社屋）や設備・機械等を使って事業継続できる準備しましょう

(4) 事業継続に向けた課題整理と目標復旧時間

業務環境の「現実」に対し、発災後の事業回復を図るための「課題」を整理します。その上で「課題解決の難易度」を評価し、最後に「目標復旧時間」を想定してみましょう。

現状 (設備体制や社員等)	災害発生時の課題	課題解決の難易度 ○×△
従業員確保 ・ 経営者 ・ 事務 ・ 情報 ・ 債権会社	・ 〇〇担当が被災すると〇〇の生産がなくなる ・ 被災時に代替生産方法の準備が必要	○
原材料仕入先	・ 原材料が揃わず生産ができない ・ 在庫を十分に確保して欲しい ・ 遠方への仕入先を確保したい	△
設備・機械	・ 〇〇設備：〇台 ・ 〇〇機器：〇台 ・ パソコン：〇台 ・ サーバー	○
取引先への対応	・ 〇〇社 ・ 〇〇会社 ・ 〇〇流通団体 ・ 納品前の事前確認、作動確認を怠らぬ ・ 〇〇社 ・ 〇〇会社 ・ 〇〇流通団体 ・ 納品前の事前確認、作動確認を怠らぬ	○
物流	・ 〇〇社 ・ 〇〇会社 ・ 〇〇流通団体 ・ 納品前の事前確認、作動確認を怠らぬ	○
情報発信	・ 〇〇社 ・ 〇〇会社 ・ 〇〇流通団体 ・ 納品前の事前確認、作動確認を怠らぬ	○
自治体との連携	・ 〇〇社 ・ 〇〇会社 ・ 〇〇流通団体 ・ 納品前の事前確認、作動確認を怠らぬ	○
その他	・ 〇〇社 ・ 〇〇会社 ・ 〇〇流通団体 ・ 納品前の事前確認、作動確認を怠らぬ	○

目標復旧時間 (事業を回復するまでにかかる日数) 3 日

(5) 社員の参集ルール

発災翌日以降、事業継続に向けた社員の参集方針や対象職位などを考えておきましょう。

- 〇〇までは、原則自宅待機とする
- 〇〇(仮眠)・〇〇(近隣社員)を参集の対象とする
- 参集条件は以下とする
- 緊急時、〇〇(高下・御座、帰社経路など)の安全が確認できた時点で公共交通機関が再開した時点で、など

(6) 職場の安定と社員へのケア

家族や自宅被害などで不安を抱えながら働く社員、事業回復に向けて頑張る社員など、災害後の社員のストレスケアも考えておきましょう。

社員の不安やストレス	具体的な対応
・ 今後、会社や生活資金がどうなるか不安になる	・ 〇〇が、被災後の経営の見通しを踏まえ、給料・福利厚生等の運用方針を迅速に届ける
・ 〇〇が、被災後の経営の見通しを踏まえ、給料・福利厚生等の運用方針を迅速に届ける	・ 〇〇が、取引先と〇〇について相談し、再開見通しを届ける
・ 〇〇が、取引先と〇〇について相談し、再開見通しを届ける	・ 小さな不安はそこまめに相談する機会を〇〇によってつくる
・ 〇〇が、取引先と〇〇について相談し、再開見通しを届ける	・ 〇〇によって〇〇する

激甚被害対策

自社の建物（社屋）や設備・機械の復旧が見込めない場合、どのように事業回復を図るかを考えておきましょう

(7) 代替戦略





激甚被害に被災した場合、事業回復に向けた暫定措置として、代替手段が必要となることもあります。(4)で記入した現状と課題に即して、仮事業所開設といった代替戦略を考えておきましょう。

(4)で整理した事業継続のための資源	事業を代替する方法
・ 原材料〇〇	・ 原材料〇〇の非常時の調達先を〇〇〇〇など複数確保する
・ 〇〇設備	・ 同業者〇〇や業種〇〇と非常時に〇〇設備、機器の共有などで協力できるようにしておく
・ 〇〇機器	・ 業務データや〇〇〇〇など、複数箇所でのバックアップ
・ パソコン	・ 〇〇業務の一部を〇〇で代替的に実施（実施できる場合）
・ サーバー	
・ 電源	
・ 取引先〇〇	
・ 〇〇輸送	

あらかわ BCPシート

地震・風水害編

BCP（事業継続計画）は、災害後の企業活動回復に関する「計画」です。企業の災害対策は発災直後の**緊急対応**と、その後の企業活動回復に関する**事業継続対策**の2本立てです。本シートは、安否確認などの緊急対応方を記入し、その上で、事業継続検討に役立ていただくために作成しました。

2022 年 〇 月 〇 日 策定・改定

企業名 〇〇株式会社

- 緊急対応の基本方針**
社員の命・生活を第一に守る
来訪者の安全を確保する
地域の災害対応をできる限り応援する
- 事業継続の基本方針**
被害状況を迅速に回復する
優先順位をつけて段階的に事業を再開する
取引先の事業継続を支援する

【平時/発災時の対応責任者】

総括責任者：〇〇 〇〇（部署・役職など）
事業継続担当：〇〇 〇〇（部署・役職など）

発行：荒川区
企画：荒川区
監修：東京都立大学 市若研究室
編集：株式会社 石塚デザイン事務所

3. 被害想定

被害想定 首都直下型地震が起きたらどんな被害が想定されるでしょうか？

（東京都2012年公表）

東京湾北部 M7.3（冬18時、風速8m/s）が発生し、荒川区では、ほぼ全域で震度6強となり、以下の被害が想定されます

【人的被害】死者422人(0.2%)、重傷者753人(0.4%)、負傷者3,731人(9.3%)
【住家被害】全壊7,217棟(18.0%)、半壊14,888棟(28.7%)、壊失5,521棟(13.7%)
【避難所生活者数】75,726人(36.3%)、【避難者数】116,502人(55.8%)
【自己脱出避難者数】3,763人(1.8%)
【ライフライン】停電率48.7%、ガス供給停止率52.5%
上水道断水率58.3%、下水道管きり被害率30.3%
【復旧目標】60日以内に95%以上回復する（東京都地域防災計画より）
（※）各インフラ復旧想定：電力7日間、上下水道30日、ガス60日

職場内の被害イメージ まちなかの被害イメージ

【出典】東京都防災ホームページ【東京都】より

風水害が起きたら・・・

荒川流域で大雨（最大降雨量：72時間降雨量432mm）が発生！
荒川区では、以下の被害が想定されます

【浸水深】区内大部分で浸水深0.5m以上、隣田沼川で浸水深3.0m～5.0m
【浸水継続時間】2週間以上

荒川流域水害想定（国土交通省2016年）に基づき【荒川区防災計画（水害版）】（令和2年7月策定）

荒川区防災地図（水害版）

【出典】荒川区ホームページより

4. 災害発生時の対応

緊急対応 地震後に、自分と社員の命を守る対応を考えておきましょう

(1) 地震の揺れが収まった後の行動

地震発生時は、まず自分の身を守りましょう。本震が収まったら、余震に気をつけて、出入り防止対策などの二次災害防止に取り組みます。

被る確認	社屋外避難の判断	二次災害（火災・爆発事故）防止	その他
<ul style="list-style-type: none"> だれが ・ 〇〇〇〇（部署・役職など） ・ 〇〇〇〇（部署・役職など） どこを ・ 〇〇〇〇室の〇〇エリア ・ 敷地内の〇〇周辺 ・ 敷地周辺、近隣地域 どのように ・ 揺れがおさまったタイミング ・ 〇〇により安全な整備・服装・靴で ・ 社屋内の身振着、火災・落下・衝突・電器物、通信機器、電気・ガス・水道の状況 ・ 敷地周辺、近隣地域の火災・物損などの状況 	<ul style="list-style-type: none"> 社屋外の避難先（複数可） ・ 落下・衝突危険性が低い安全な敷地内の〇〇（御座）バス、玄関周り） ・ 隣地の〇〇、地域の一時的避難場所 社屋外避難の判断条件 ・ 建物・御座危険性がある場合 ・ 落下・衝突物などで、会社内に安全な避難スペースや避難経路の確保できない場合 ・ 近隣地域の火災による延焼が想定される場合 	<ul style="list-style-type: none"> 余震に備えて安全に避難できる場所・避難経路（廊下・階段など）の確認 避難経路の確保 確認、火災原因となる〇〇の停止 ガス・電気の停止 落下・衝突・電器の防止対策 	<ul style="list-style-type: none"> 本震直後の混乱状況の中で、会社の一員としてなすべきこと 初動時に役割分担して、声をかけあって冷静に対応する 命の確保最優先で無理はしない 適宜、情報を収集して、的確な判断ができるようにする お互いが声をかけて、同じ方向にいる社員の状況を冷静に把握する

(2) 同僚の安否確認

地震発生時に社員の安否確認を誰が、どんな手段で、どう集約するか、確認しておきましょう。

確認方法	動画中	出勤・退社・在宅・外出時
<ul style="list-style-type: none"> 確認方法 ・ 電話 ・ SNS等 （chat、slack、facebook） 	<ul style="list-style-type: none"> メール ・ メール ・ LINE、Twitter 	<ul style="list-style-type: none"> 連絡 ・ 〇〇〇〇（部署・役職など） ・ 〇〇〇〇（部署・役職など） ・ 〇〇〇〇（部署・役職など）

(3) 帰宅に関するルール

子育てや介護の関係から遠やかな帰宅が必要な社員もいます。帰宅に関する条件や優先ルールを話し合っておきましょう。

勤務中	帰宅に関する条件とルール	補足事項
<ul style="list-style-type: none"> 原則会社内待機 ・ 来訪者がいる場合は待機 	<ul style="list-style-type: none"> 安全確認を済ませた上、〇〇の事情がある社員は帰宅 	
<ul style="list-style-type: none"> 外出中 ・ 会社、自宅の近い方への移動 	<ul style="list-style-type: none"> 周辺に被害状況や移動経路の安全が確認 	
<ul style="list-style-type: none"> その他 ・ 宿泊を伴う出張の場合宿舎施設等へ避難 	<ul style="list-style-type: none"> 待機施設のルールに沿って適宜対応 	

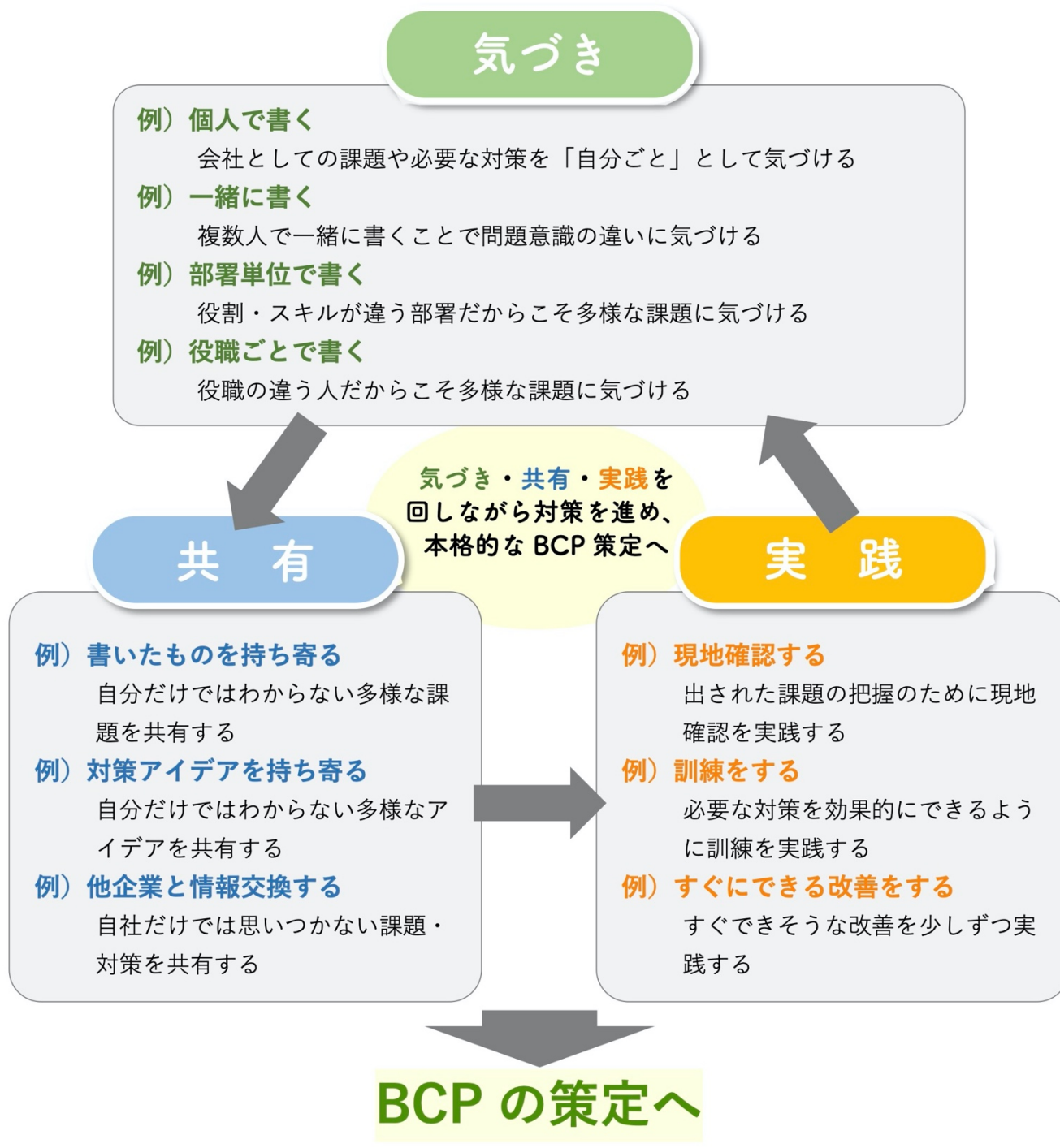
風水害（台風や大雨等）への備え

台風については、数日前から台風情報が公表されます。気象情報の入手方法、自宅勤務への切り換え条件、被害軽減対策についてまとめておきましょう。

- 気象情報の入手方法
・ スマホ（アプリ、ラジオ、インターネットなど）のニュース
- 行政（県庁、東京都、荒川区など）の災害情報サイト（※）ハザードマップで水害危険性をしっかり把握しておく
- 自宅勤務への切り換え条件
・ 荒川が避難開始水位（レベル3）に達した時点
- ・ 台風の接近による暴風雨発生予想日より1日前に休業日・休暇を判断
- 被害軽減対策
・ 水害危険性がある〇〇を〇〇で移動、防水・防雨措置
- ・ 雨で飛ばされる危険性のある〇〇などの社屋内の移動

3 使い方

(1) 効果的な使い方の一例を紹介します



(2) いろいろな使い方ができます

- 例) 従業員一人ひとりがBCPシートを常に携帯しておく
- 例) BCPシートを拡大印刷して会社に貼っておく
- 例) 地域の防災まちづくりと自社の防災対策を連携させる

4 お役立ち情報

| 防災情報のポータルサイト

荒川区の災害対策

<https://www.city.arakawa.tokyo.jp/bousai/saigaitaisaku/index.html>

東京都 防災ホームページ

<https://www.bousai.metro.tokyo.lg.jp/index.html>

| 防災マップ

荒川区 防災地図（地震版）

<https://www.city.arakawa.tokyo.jp/a013/bousai/jishinnisonaete/bosaimap.html>

荒川区 防災地図（水害版）

<https://www.city.arakawa.tokyo.jp/a013/bousai/suigainisonaete/suigaimap.html>

荒川区 土砂災害ハザードマップ

<https://www.city.arakawa.tokyo.jp/a013/bousai/suigainisonaete/dosya-map.html>

| 日常時からの備え

荒川区 知って備える防災サイト「まな BOSAI」

<https://www.city.arakawa.tokyo.jp/bousai/bousaijohou/index.html>

| 災害時の情報収集

荒川区 防災アプリ

<https://www.city.arakawa.tokyo.jp/a013/bousai/dentatsushudan/bousaiapuri.html>

荒川区 災害情報サイト

<https://bosai.city.arakawa.tokyo.jp/>

荒川区 Twitter・Facebook

<https://www.city.arakawa.tokyo.jp/a004/kouhou/sns/arakawaku-twitter.html>

| BCP 策定に関する情報

BCP 策定支援補助（荒川区）

<https://www.city.arakawa.tokyo.jp/a021/jigyousha/jigyounet/bcpsakutei.html>

BCP 実践設備投資補助（荒川区）

<https://www.city.arakawa.tokyo.jp/a021/jigyousha/jigyounet/syoubihohojyo.html>

BCP 策定支援ポータル（東京都中小企業振興公社）

<https://www.bcp-navi.tokyo/>

BCP など企業の防災対策支援（東京商工会議所）

<https://www.tokyo-cci.or.jp/survey/bcp/>

首都直下地震等による東京の被害想定（東京都／平成 24 年 4 月 18 日公表）

<https://www.bousai.metro.tokyo.lg.jp/taisaku/torikumi/1000902/1000401.html>

【コラム】作り方 ～どうやって作ったの？～

本シートは、区内で製造業を営む中小企業の皆さんの声をお聞きしながら作成しました。

①インタビュー調査

すでに実施している防災対策を教えていただきながら、荒川区内のより多くの中小企業がBCPの策定に取り組むために、どんな課題があるか、どんなアイデアがあるかを意見交換しました。

②ワークショップによる意見交換

作成途中のシート（案）に実際に記入していただき、参考になったことや、より使いやすいシートにするために、どんな改善をおこなえばよいか、ワークショップ形式で意見交換しました。

参加協力企業の皆さんからは「BCPを知らない企業も多いので、そもそもBCPとは何かをわかりやすく伝えることが大切」「大地震はもちろんであるが、風水害対策に力を入れないとならない」「実際記入してみると、やらなければならないことに気づけた」「一緒に色々な企業と書いてみるような機会があるといい」など、たくさんの貴重なご意見をいただきました。



③専門家による作成

BCPシートの作成には、専門的な知見が欠かせないことから、防災・復興まちづくりの第一人者である**東京都立大学・市古太郎教授の企画・監修**のもと作成しました。



市古太郎教授（東京都立大学）
震災復興の現場調査・研究の知見を活かして、住まいとまちの復興支援に尽力されています

簡易版あらかわBCPシートや解説書に関するお問い合わせは

荒川区 産業経済部 経営支援課

〒116-8501 荒川区荒川 2-2-3 荒川区役所 6階 / TEL：03-3802-4808 / FAX：03-3803-2333